のブリッジ余談（第 85 回）

ジャンプシフトレスポンス

2016.8.19

先日日本ブリッジ教師会監修の「5 枚メジャー基礎コース」を改めて見ていたら、レスポンスの章に非常に強いハンド（19pts 以上）は「ジャンプシフトしてパートナーに途中でパスされないようにします。(p15)」と書いてありました。そういえば、ブリッジを習い始めた頃は 19pts 以上ではなく 16pts 以上でしたが[*1]、強いハンドを表すと教わりました。だが今これを使っている人は見かけない、皆ウィークですと言っていますね。なぜなのでしょうか？昔はジャンプシフトはストロングハンドでスラムを考えているということになっていましたが、このようなハンドは 1 年に 1 回も出てこない、むしろ普通はレスポンスしないような弱いハンドを示すのに使おうとエキスパートが考えるようになったのです。しかしながら、私はこの弱いハンドを示す機会も 1 年に 1 回も出てきた記憶がありません。50 年のブリッジ歴でもほんの 1，２回だったと記憶しています。皆さんはどう思いますか？ウィークジャンプシフトが出てきたのはいつのことでしたでしょうか？両方とも滅多に出てこないのですから、ビッドの無駄遣いと言えましょう。ハンドの種類は天文学的数あるにもかかわらず、ビッドシーケンスは限られています。したがって利用可能なシーケンスは出てくる可能性があるものに使う、しかもそれは弱いハンドでなく強いハンド向けに使うように決めた方が優れていると思います。弱いハンドのために精密なコンベンションを使っても、試合の勝敗に影響を及ぼすことが少ない、強いハンドのために使った方が勝敗の帰趨に寄与するところが大きいからです。

さてなぜ 19pts 以上となっているのでしょうか？オープンが 13pts 以上ですから合計で 32pts 以上になる点という意味で 19pts と定められたように思えます。しかし絵札合計点だけでスラムのありなしを判定することは少なく、まずフィットしているかが最初で、それからどれだけトリックが取れるかを判定してゆくのが常道です。ジャンプシフトレスポンスするハンドは、オープニングスートとフィットしていて、オープニングハンド以上の強さがあり、さらにサイドに良いソリッドスーツがあるとき、それをジャンプシフトレスポンスします。これが効果的です。

NeitherVul
Dealer S

	♠J654 ♥KQ10754 ♦86 ♣8	
♠92 ♥985 ♦J1092 ♣10532	N W E S	♠- ♥J6 ♦AKQ7543 ♣KQJ4
	♠AKQ10873 ♥A3 ♦- ♣A976	

この方法をさらに延長して考えるとフィットジャンプ（4 枚サポートと良い 5 枚スート）に使うのも効果的です。

左に極端な例を示しましょう。先日の町田ＳＲＲ＆ペアで出てきたハンドです。ＮＳ側に簡単に７Ｓができますが、到達しているペアは皆無でした。それどころか６に到達したペアはわずか１ペアでした。Ｓから２Ｃで開けてもいいのですが、１Ｓとオープンしたとき、Ｎがフィットジャンプ３Ｈ（スペードサポートと良い 5 枚ハートを示す）というとＳからは 13 トリック（Ｓ７＋Ｈ５＋Ｃ１）見えるのですぐに７Ｓとビッドできます。なお２Ｃで開けたときはどうなるでしょうか？２Ｃ－２ＮＴ（＝Ｈポジティブ）；３Ｓ－４Ｓとなって、ＳからＮのハートが KQ の５枚あるという確信が持てれば７Ｓと言えますが６で止まるかも知れませんね。このようにフィットジャンプはなかなか有効です。

レスポンダーのジャンプシフトは、このほかにＧＩＪＳ（Game Invitational Jump Shift）と呼ばれる方法が最近現れてきました。２／１ＧＦシステムでもスタンダードシステムでも扱い方が困る 10-12 点位のレンジのハンドを最初のレスポンスでジャンプして示すといいうものです。♠KQ10973♥2♦A1074♣J86 を持っていて、パートナーが１Ｃとオープンしてきたときに、普通では１Ｓとレスポンスしますね、でもリビッドが２Ｃだったときに３Ｓと言うしか無くなりますよね。でもこれは高く行き過ぎになるかも知れません。でも２Ｓというとサインオフですから４Ｓルーズになるかも知れません。そこでこのようなハンドを２Ｓとジャンプして示すのです。

これからの時代、ストロングジャンプシフト（ＳＴＪＳ）とウィークジャンプシフト（ＷＫＪＳ）の両方は去り、ゲームインビテーショナルジャンプシフト（ＧＩＪＳ）の時代になってゆくかも知れませんね。

[*1] pts とは絵札点とレングスポイントの合計点です（5 枚メジャー基礎コース p5 参照）